保育者におけるカウンセリング学習ニーズ
―埼玉県内の保育所・幼稚園の保育者調査から―

石川洋子*・井上清子**

Need for counseling education among preschool teachers
― Results of a survey taken of nursery school teachers and kindergarten teachers in Saitama Prefecture ―

Hiroko ISHIKAWA, Kiyoko INOUE

要旨　本研究では，埼玉県における保育所と幼稚園の保育者を研究対象とし，質問紙調査を行い,カウンセリング学習に対するニーズと保護者対応に対する意識調査の検討を行った.

子どもや保護者への問題意識は，幼稚園よりも保育所の方が高かった．カウンセリング学習への関心は，84.6％の保育者が持っていた．学習したい内容は，カウンセリングの基本的技法，積極的技法であり，問題を感じる保護者との関わりの場面で，保育所の保育士の方がニーズが高かった．また職場での人間関係では，保育所の保育士に難しさを感じる者が多かった．保育者間での連携や協力が難しいと答える者ほど，保護者に対して問題意識を強く持っており，カウンセリングの必要性も感じていた.

保育所や幼稚園で，保護者対応や保育者同士の人間関係において苦慮し，カウンセリング学習の必要性を感じている保育者に対して，早急な手だてが必要と考察された.

キーワード：子育て支援　保護者対応　カウンセリング　保育所　幼稚園

Ⅰ　研究目的

保育現場における子育て支援の重要度が増している．子育て支援とは，保護者の支援でもある．2002年の児童福祉法改正により，保護者に対し保育に関する指導を行うことが保育士の業務となった．また2007年の学校教育法の改正では，幼稚園において，保護者及び地域住民からの相談に応じ，必要な情報提供や助言を行うよう明記されている.

これらの変化で，保育現場における保護者対応において，さまざまな知識の習得と，きめ細やかで相手に応じた個別的な対応ができる保育者の力量が求められるようになった．このため保育現場では，カウンセリング学習などに対するニーズが増している.「幼児教育振興アクションプログラム」（平成18年）でも，教員の資質及び専門性の向上のために，カウンセリングを含めた子育て支援などの課題に対応した研修の改善・充実を図るよう求めている.

しかし，現在，保育の現場におけるカウンセリング学習のニーズや今後の保育者養成，在職者研修における保護者対応のための具体的研修内容などについての研究は，まだ十分とはいえない．このような問題意識のもとに，今回，埼玉県内の保育所と幼稚園の保育者のカウンセリング学習に対するニーズと保護者対応に関する保育者の意識調査を行ったので報告する.

*いしかわ　ひろこ　文教大学教育学部心理教育課程
**いのうえ　きよこ　文教大学教育学部心理教育課程

Ⅱ　研究方法

１．調査方法と研究対象

質問紙調査用紙を作成し，埼玉県内の全775カ所の公立・私立認可保育所の所長と，全636園の幼稚園園長宛に調査票２部と返信用封筒を郵送し，返送された保育士570名（315園），幼稚園教諭593名（331園），計1,163名を研究対象とした．尚この1,163名中には，保育士，幼稚園教諭の他に，園長・副園長・教頭の役職にある者（25.4％）や主任・主査（26.2％）も含まれる．回収率は，保育所40.6％，幼稚園52.0％である．調査時期は2006年１月～2007年1月である．

２．調査内容

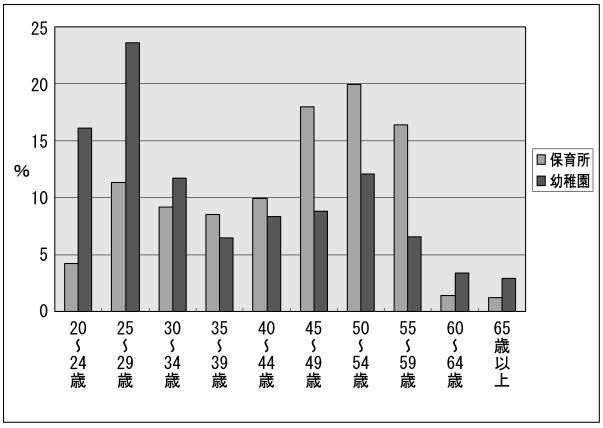
質問の項目等については，石川ら（2005）[1)]の研究をもとに，子どもや保護者に対して，あるいは職場の人間関係で感じる問題や困難，カウンセリング学習に対する関心とその内容，カウンセリングの知識や技術の必要性を感じる場面等について主に５段階で評定してもらった．

Ⅲ　結果と考察

１．研究対象の属性と年齢構成

研究対象1.163名の内訳は，女性93.4％，男性6.2％（不明0.4％）であった．年齢の平均は40.9歳（SD12.69）（保育所44.0歳，幼稚園37.9歳，T検定p<.001）であった．保育者の年齢は，保育所では40歳後半から50歳代がもっとも多かったが，幼稚園では20歳代がもっとも多い結果であった（図1）．

保育経験年数の平均は17.6年（保育所20.4年，幼稚園14.9年，T検定p<.001）であった．保育所と幼稚園の保育者では，年齢，経験年数ともに違いのある結果であった．



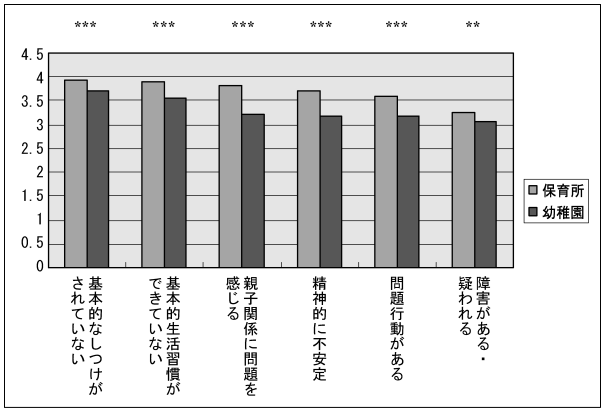
***P<.001

図１　保育者の年齢（保育所・幼稚園）

２．子どもや保護者への問題意識

２－1）子どもへの問題意識

まず，日々の保育現場において，保育者が感じている子どもの具体的な問題について５段階評定で答えてもらったものが図２である．「基本的なしつけがされていない」「基本的生活習慣ができていない」「親子関係に問題を感じる」「精神的に不安定」「問題行動がある」「何らかの障害があるか疑われる」までのすべての項目で評定３以上の高い回答が得られた．特に上位5項目では保育所と幼稚園に大きな有意差が見られ，保育所の方がより子どもへの問題意識を強く持っていた（T検定p<.001）．



***p<.001 **p<.01

（５とてもある　４少しある　３どちらともいえない　２あまりない　１全くない）

図２　子どもへの問題意識（保育所・幼稚園）

2－2）保護者への問題意識

次に，保育者が感じている保護者の具体的な問題について，同じく５段階評定で答えてもらったものが図3である．「基本的な育児やしつけができない」「放任または過干渉」から「保護者同士の関係がうまくできない」までの多くの項目で，保育所の方が幼稚園よりも問題意識を強く持っていた．幼稚園では３を下回る項目も見られ，保育所との間に差が見られた．唯一，幼稚園の方が高く見られた項目が「保護者同士の関係がうまくできない」の項目であった．（T検定p<.001，p<.01）．

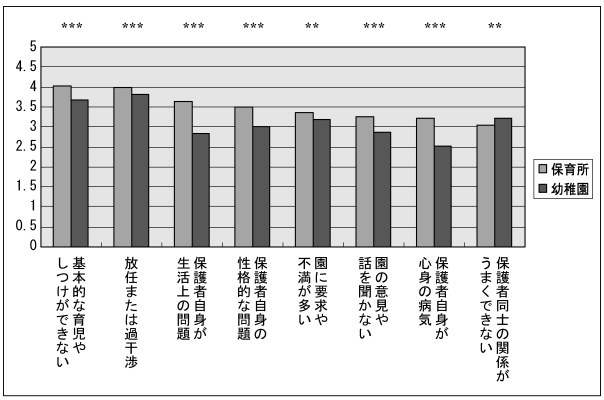
保育現場においては，保育所の方が幼稚園よりも，子どもにも保護者にも問題意識を強く持っている結果であった．

また，この保護者への問題意識に関する項目間の相関はいずれも高かったため（表１），これを保護者への問題意識得点として保育者個々の得点を求めてみた．平均26.5，標準偏差5.38である．この得点分布をもとに，平均値±SD/2を基準に3群に分けたものが表2である．それぞれ保護者への問題意識高群・中群・低群とした．

表２　保護者への問題意識得点

	M (SD)	N
高群	32.4 (2.17)	341
中群	27.1 (1.35)	394
低群	20.4 (3.23)	375
合計	26.5 (5.38)	1110

この保護者への問題意識の高さと保育所，幼稚園それぞれの保育者の年齢との関連をみたものが，表３である．年齢はそれぞれ35歳で区切ったものであるが，保育所と幼稚園では差が見られた．幼稚園では，特に35歳未満の者に保護者への問題意識が低い者が多かったが，保育所では，35歳以上の年齢の高い者に特に保護者への問題意識の高い者が多い傾向が見いだされた（χ^2検定p<.001）．



***p<.001 **p<.01

（５とてもある　４少しある　３どちらともいえない　２あまりない　１全くない）

図３　保護者への問題意識（保育所・幼稚園）

表１　保護者の問題項目の相関係数

	育児やしつけ	放任過干渉	生活上の問題	性格的問題	要求不満多い	話を聞かない	心身の病気	
育児やしつけ								
放任・過干渉	.552**							
生活上の問題	.393**	.338**						
性格的な問題	.394**	.379**	.530**					
園に要求や不満	.359**	.376**	.330**	.411**				
園の話を聞かない	.405**	.395**	.416**	.401**	.597**			
心身の病気	.338**	.304**	.655**	.483**	.337**	.354**		
保護者同士の関係	.328**	.355**	.372**	.358**	.459**	.414**	.335**	**p<.01

表３　保護者への問題意識×年齢（保育所・幼稚園）

		問題意識			
		高群	中群	低群	%(N)
保育所	35歳以上	46.7	34.7	18.6	100.0(403)
	35歳未満	24.8	40.6	34.6	100.0(133)
幼稚園	35歳以上	30.9	35.3	33.8	100.0(272)
	35歳未満	11.5	34.1	54.4	100.0(296)

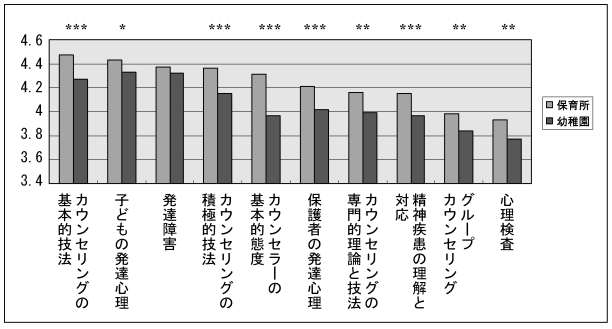
(χ^2=136.2 p<.001)

３．カウンセリング学習

３−1）カウンセリング学習への関心と内容

カウンセリング学習への関心を尋ねたところ，関心が「とてもある・少しある」を合わせ，全体の84.6%の保育者があると答えていた．

学習したいカウンセリングなどの具体的内容は，図4のように，「カウンセリングの基本的技法」「子どもの発達心理」「発達障害の理解と対応」「カウンセリングの積極的技法」「カウンセラーの基本的態度」が高い割合であげられていた．発達障害に関しては，保育所と幼稚園に差異はなく，どちらの保育者も学習を望んでいたが，他の項目のカウンセリングの基本的な技法や姿勢については，保育所の方が幼稚園よりもより強く学習を望んでいた（T検定p<.001 p<.01 p<.05）．ここにも保育所と幼稚園の違いが出ていた．



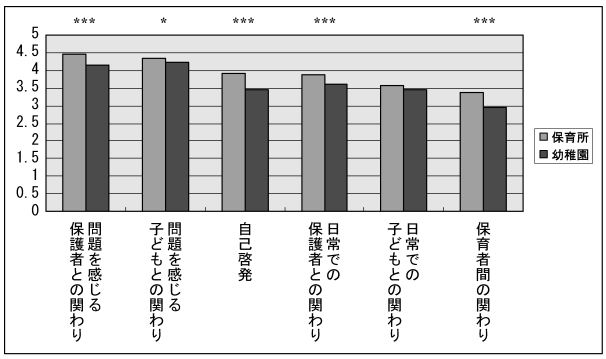
***p<.001 **p<.01 *p<.05

（５とても思う　４少し思う　３どちらともいえない　２あまり思わない　１全く思わない）

図４　学習したいカウンセリングの内容（保育所・幼稚園）

３−2）カウンセリングを必要とする場面

実際に保育現場のどんな場面で上記のようなカウンセリングの知識や技術の必要性を感じるかを尋ねたものが，図5である．「問題を感じる保護者との関わり」「問題を感じる子どもとの関わり」「自己啓発・自己研鑽」「日常での保護者との関わり」などの場面があげられていた．保育所でも幼稚園でも特に問題を感じる保護者や子どもとの対応において，カウンセリングの必要性が意識されていた．特に保育所では，保護者対応におけるカウンセリングの必要性が強く意識されていた（T検定p<.001 p<.05）．



***p<.001 *p<.05

（５とてもある　４少しある　３どちらともいえない　２あまりない　１全くない）

図５　カウンセリングを必要とする場面（保育所・幼稚園）

３−3）保護者への問題意識とカウンセリング学習の必要性

保護者への問題意識の高さとカウンセリングの必要性の意識の関連を見たものが表４である．保護者への問題意識の高い高群の保育者は，問題を感じる保護者との対応などにおいて，カウンセリング学習の必要性を強く意識していた（F=56.47 p<.001）．

表４　保護者対応でのカウンセリング学習の必要性

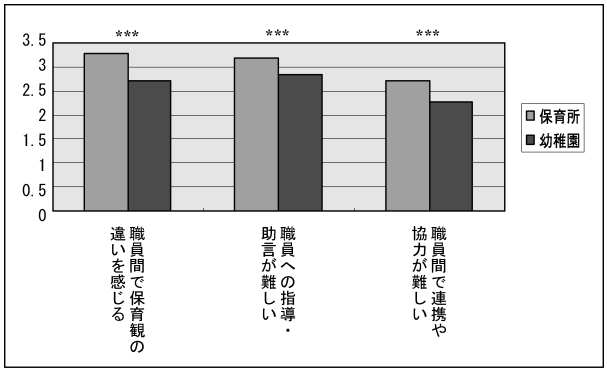
＜保護者対応におけるカウンセリングの必要性得点＞

		M	SD	N	F 値
保護者への問題意識	高群	4.60	0.64	335	56.47 ***
	中郡	4.35	0.72	388	
	低群	3.97	0.99	369	

(***p<.001)

４．職場の人間関係

保育所や幼稚園といった保育の職場における人間関係に関する意識を尋ねてみた（図６）．「職員間で保育観の違いを感じる」「職員への指導・助言が難しい」「職員間で連携や協力が難しい」の３項目であるが，全体として３以上の得点を示した者は，幼稚園では多くはなかった．しかし保育所では，「職員間で保育観の違いを感じる」「職員への指導・助言が難しい」と3以上と答えた者は少なくなく，また，いずれの項目においても保育所の方が幼稚園より高い数値を示していた（p<.001）．保育所の方が職場の人間関係という点で，さまざまな問題意識を抱えている保育者が多いことがうかがえた．



***p<.001

（５とてもある　４少しある　３どちらともいえない　２あまりない　１全くない）

図６　職場の人間関係

また，「職員間で連携や協力が難しい」の項目と，保護者への問題意識の関係を見たものが，表５である．職場での連携や協力に難しさを感じている保育者は，保護者への問題意識も高群が半数以上を占めるなど高く，有意差を示していた（χ^2=80.72 p<.001）．これらの意識は関連があるものと思われる．

表６は，「職員間で連携や協力が難しい」の項目と職場の保育者間の関わりにおけるカウンセリング学習の必要性との関連である．連携や協力の難しさを感じている保育者は，保育者間の関わりにおいても，カウンセリング学習の必要性を強く感じていた（χ^2 =114.1 p<.001）．職場における人間関係がうまくいくことは，保護者の行動の見方にも影響があるもののようである．また職場の人間関係や連携・協力関係に問題を感じている者は，職場においてもカウンセリングを必要としている．

保育の場において，これら何らかの問題を感じている保育者たちへのカウンセリング学習を通した援助の必要性が早急に必要であると考察された．

表５　連携や協力の難しさ×保護者への問題意識

＜保護者への問題意識＞

	高群	中群	低群
＜連携や協力の難しさ＞			
ある	51.2	30.1	18.7
どちらともいえない	32.8	39.2	27.9
ない	22.5	36.4	41.1

(χ^2=80.72 p<.001)

表６　連携や協力の難しさ×保育者間の関わりにおけるカウンセリングの必要性

＜保育者間の関わりにおけるカウンセリングの必要性＞

	ある	どちらともいえない	ない	% (N)
＜連携や協力の難しさ＞				
ある	60.2	27.6	12.2	100.0(254)
どちらともいえない	41.7	40.8	17.5	100.0(211)
ない	32.3	26.2	41.5	100.0(669)

(χ^2=114.1 p<.001)

Ⅳ　まとめ

埼玉県内の保育所と幼稚園に勤務する保育者1,163名に，カウンセリング学習のニーズと主に保護者対応に関する意識調査を行った．子どもや保護者への問題意識は，幼稚園よりも保育所の方が強く見られた．

カウンセリング学習への関心は，84.6％の保育者が持っていた．学習したい内容は，カウンセラーの基本的態度やカウンセリングの基本的技法，積極的技法であり，問題を感じる保護者との関わりの場面で，保育所の保育士の方がニーズが高か

った.

また職場での人間関係では，保育所の方が，保育観の違いを感じる，職員間で連携や協力が難しいと答えていた．保育者間での連携や協力が難しいと答える者ほど，保護者に対して問題意識を強く持っており，また，保育者間の関わりにおけるカウンセリングの必要性も感じていた.

保育所や幼稚園で，保護者対応や保育者同士の人間関係において苦慮し，カウンセリング学習の必要性を感じている保育者に対して，早急な手だてが必要と考察された.

本論文はその一部を日本保育学会第60回大会（平成19年）と，日本教育心理学会第49回大会（平成19年）にて発表している．また論文の一部を文教大学教育学部紀要第39集，第40集，第41集，文教大学生活学研究第29集にて発表している.

【引用文献】

(1) 石川洋子・井上清子・会沢信彦「子育て支援とカウンセリング（1)」文教大学教育学部紀要第39集，2005，51-62

【参考文献】

(1) 秋田喜代美・無籐隆・安見克夫・藤岡真貴子「コンサルテーションによる保育環境の構成」保育学研究第33巻第２号，1995
(2) 井上清子・石川洋子・会沢信彦「子育て支援とカウンセリング（2)」文教大学教育学部紀要第40集，2006
(3) 井上清子・石川洋子・会沢信彦「保育者が感じている問題とカウンセリングニーズ」文教大学生活学研究第29集，2007
(4) 井上清子・石川洋子・会沢信彦「子育て支援とカウンセリング（3)」文教大学教育学部紀要第41集，2007
(5) 國分康隆・國分久子監修，保護者との対応，図書文化，2003
(6) 田代和美保育「カンファレンスの検討」保育学研究第34巻第1号，1996
(7) 藤後悦子「保育現場における心理相談員の役割」保育学研究第39巻第2号，2001
(8) 富田久枝・杉原一昭，保育カウンセリングへの招待，北王子書房，2007
(9) 橋本真紀・扇田朋子・多田みゆき・藤井豊子・西村真実「保育所併設型地域子育て支援センターの現状と課題」保育学研究第43巻第１号，2005
(10) 水谷孝子・檜垣博子・富田英子「保育士の専門職性を支える条件Ⅱ」全国保育士養成協議会第44回大会研究発表論文集，2005，108-109
(11) 若林明美「養成校におけるカウンセリング授業についての実態調査」日本保育学会第54回大会研究論文集，2001，620-621